

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係

〒285-0025  
佐倉市鍋木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ	合掌とクロス	村田長保	ズッキーニを育てる	鈴木文次郎
3 ページ	印旛沼龍神伝説	松井弥彦	私たちの交わり	子安三智子

## 稲荷台ピオトープ

栗原 欣一

稲荷台四丁目自治会の有志と、佐倉自然同好会が協力して小川と斜面林の手入れに取りかかったのは、平成十年五月でした。あれから八年、いろいろな苦労をのり越え、たゆまぬ取り組みを続けた結果、町中にメダカが泳ぎ、オニヤンマが羽化し、サワガニが生きた小川が残り残りました。

斜面には、珍しくなつたヤマユリが咲き、秋にはヒガンバナが土手を彩り、またウマノスズクサを食草にするジャコウアゲハがとぶ、もともとの自然の姿が復活してきているのを感じます。自然を壊すのはたやすいが、復活するのは何倍もの時間と労力がかかることを実感します。

はじめに目指した、春の小川復活に近づきつつあると思いますが、ホタルのお帰りに至っていません。この気む

ずかしいお嬢さんを迎えるのは、まわりの田圃を含めた自然の回復と斜面林をさらに緑豊かな姿に育て上げることが必要です。自然環境は厳しいが、時流はゆっくりながら、人と自然の共存に動いてきました。焦らず夢に向かっていきたいと思えます。

上座公園でセミの羽化鑑賞会。昨年八月三日午後七時より、ピオトープ主催の子供観察会を行いました。舞台はメタセコイア、秋には紅葉して葉を落とす珍しい針葉樹の大木が何本もある公園西奥。セミは一般的に幼虫期は四年から七年地中にあり、その間は樹木の根の樹液を吸って生きていくが、その幼虫が地上に現れ、樹木の幹をゆつくりと這い上がり、セミにとって羽化に適した枝葉に到着し、それから神秘の羽化がいよいよ始ま

るのです。五円玉ほどの穴を開け地上に出てくるのは、日が暮れかかる頃、そして羽化の最盛時間は八時頃だろうか、個体によって時間のずれあり、幼虫の背中がわれ小さく豊かな淡い緑色の羽が現れてから、完全に羽化するまで一時間から二時間固唾を呑んでじっと見つめる顔、顔、顔、子供たちはもちろん、親御さんたち、説明会の私たちも無言、時々羽化の過程で大きく動くとき声があがる。毎年同じことの繰り返しであるが、感激の瞬間である。

子供たちはその一瞬何を思ったのでしょうか、何かを感じたのでしょうか、何かを感じてもらえばそれで良いと思えました。

関東地方のセミは、ニイニイゼミ・ハルゼミ・ツクツクボウシ・ミンミンゼミ・アブラゼミなど。上座公園でこの時期羽化するのにはアブラゼミです。

(編集委員)

## 合掌とクロス

松井秀樹選手が大リーグ・デビューした頃、ヤンキースの同僚たちが彼に対し両手を合わせて「挨拶」しているシーンを見てよくみかけた。私もヨーロッパを旅していて、何度かヨーロッパ人から両手を合わされた経験がある。欧米人してみれば東洋人イコール仏教徒であり、仏教即合掌というイメージが浸透しているから、アジア人と見るとすぐ合掌して彼らなりの敬意、半分からかいの気分も込めて親愛の情を表すのだろう。

それでは「合掌」に相当する欧米人のパフォーマンスは何だろう。

ヨーロッパの教会を訪ねるとローソクの灯った礼拝堂や祭壇の前でカニシマ 膝ヒザを垂ツリれてる善男善女に出会うが、その時の彼らはおおむね両手の指をからませた型で合掌している。基督教の合掌は両手を

組み合わせるポーズと考えると良いのだろうか。

欧米人にとって合掌よりもっと一般的なパフォーマンスは「十字を切る」であろう。普通は右手で上・下・左・右と十字を描くようだが、その際指の折り曲げ方など細かい所は分からない。女性は軽く膝を折るようだが男性はどうなのか（ついでながら、十字を切り、膝を折る女性の姿は何であれ美しいのだろう。あの美しさ、優雅さゆえ、キリスト教はヨーロッパで受け入れられたのではと思ってしまう）

松井選手、合掌に対して合掌で応えていたようだが、今後、十字を切って返礼してみたら如何だろう。

（新臼井田 村田 長保）



## ズッキーニを

### 育てる

知人がイタリアから取り寄せたズッキーニの種一袋を貰った。種袋はイタリア語で書いてあり、読めないから当然育て方が解らない。知人も春植えと言っただけで不知。解説本も無かったので、仕方なく今迄の経験と勘で育ててみることにした。

四月下旬、カボチャの種のようなこの種を畑に蒔き、やがて大きな双葉が出てきた。間も無く沢山の油虫が双葉につき、農薬では葉害で枯れるだろうと、腐らせた牛乳を塗って駆除した。基肥もとこえの堆肥も確り効いて大きく育ち始めると、葉っぱが特大で添え木が必要になり、これをしないと本命のズッキーニが濡れ腐ること解った。

主茎から太いキュウリみたいなものが次から次へと横に伸び出、その先端に花が咲く。

それがズッキーニと解るまでに、三本駄目にした。花が咲き終わったものを主茎から切り落し食用にするが、最初生ったものは太く大きい、後から生ったものは短く小さかった。

本体一本でズッキーニを六本ぐらい収穫した。育て方は最初がちよつと大変だが、葉っぱが出たら後は放つて置いても育つ楽な野菜である。

ズッキーニの中味はキュウリと比べ肉厚もあり、肉は密に締まっている。

調理として、炒め物、汁の中に、漬物にして食べたが、味としては炒め物が一番合うようだ。

外国から取り寄せた種子を勘で育て、収穫、食べることでできた喜びは最高であった。

（臼井田 鈴木 文次郎）



## 印旛沼龍神伝説

印旛沼の形が竜に似ています。現在の北沼が頭・西沼までが腹・その先が尾に見えます。それで印旛沼には竜に纏まとわる伝説が色々ありました。

「三つざきにされた竜」

印旛沼は豊富な水で田畑が大変潤い、村人達は幸せに暮らしていました。それも沼に竜さんがおり雨を降らせてくれるからだと言えられてきました。

ある年、日照りで水に困り、竜さんに雨乞いしたのですが、雨にならず困っていました。「雨を降らせれば私の体は三つ裂きにされて天から捨てられるだろう」と、竜さんは思いました。けれども、村人達の熱心な願いを聞き竜は天に昇っていきました。そして三日後急に、滝のような雨が降り、農作物がたちまち息を吹き返しました。

これもみんな竜さんのお

陰だと村人達が喜んでいる時、

印旛沼周辺三ヶ所に頭・腹・尾と竜の体がバラバラになって落ちてきました。そこで村人達は、村のために命を投げ出してくれた竜神さんを祭るお寺を沼の周囲に建立し、それが、現在に残る竜角寺・竜腹寺・竜尾寺だという伝説。

この郷土に伝わる伝説の中の本命ともいわれる「三つざきにされた竜」の話を、二月上旬フジTV・「旅美人」という番組の佐倉の案内で、私がいまがしようとしていたところ「三つざき」という言葉が残虐で、放送禁止語句に類するという理由で取材直前に取りやめさせられてしまいました。

全国各地に何百年前から残る、貴重な伝説の真の姿が、当世風の浮薄な思想で、このように歪められ、消されていく現状で良いのでしょうか。日本の古来から伝わる文字文化をもっと確りと考えて守って行きたいと思えます。

(並木町 松井 弥彦)

## 私たちの交わり

クッキングサークルの皆様とは早いもので二十年近くのお付き合いとなりました。お互いに知りつくした友となり、自然体の中で教え合い、家族の健康のためにも工夫された料理に舌鼓を打ちながら話し合う至福の時を持っています。

メンバーのお一人は高齢のお母様を介護する中での問題点、介護保険の利用や施設入居での本人の意志、関わる姉妹の協力体制などこれから誰でも避けて通れない大切なことを話された。みな真剣な聞き手となり、やがての時の事前知識を得ることができました。

近頃とても若々しく感じられる方もいて、その秘訣は何ですかと何うと韓国俳優のやさしさに恋したとのこと、その映画を観て韓国まで旅をしたと乙女のように頬を染めら

れました。まさに恋とは素晴らしいと改めて感心しました。

昨年より佐倉市のカレッジ生になられて多方面の学びや活動をされている方もおられます。その内容を写真に撮ってこれ報告して下さいました。たくさんの方々が楽しんでうにまた真剣に取り組んでいることが伝わってきました。これからどのような方向で学んだことを生かしていくか検討中とのことでした。市民の幸せに直結する活動を皆さんで期待しています。

お料理を教え合うだけに止まらず生活の知恵を互いに楽しみながら学ぶこの交わりがこれからも長く続くことを願っています。

いつも根郷公民館の整えられた調理室を利用させていただき有難く思います。市で提供して下さる施設設備企画を大いに利用して健康で明るい生活を楽しみたいと思っています。

(西志津 子安 三智子)

# 5月の黒板

## 『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

**[原稿規定]** 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

**問い合わせ** 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

URL <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

### くぐら道

京成佐倉駅周辺の、ゴミや吸い殻のポイ捨ては、目に余るものがあります。早朝にボランティアの方々が、清掃して下さってますが、その後三十分もしないうちに、もう目に付くほどの吸い殻などが捨てられています。

佐倉朝日マラソンにはじまり、佐倉チューリップまつり、佐倉時代まつり、そしてゴー

ルデンウィークは佐倉草ぶえの丘や市内散策など、観光シーズンたけなわの今、お客様を迎え入れる玄関口としては、恥ずかしいかぎりです。  
ゴミはゴミ箱へ、吸い殻は携帯用灰皿を持つ！一人一人がマナーを守ること、大勢の皆さんから、気持ちのいい、たくさん笑顔をもたらすことができるのです。お互いに気を付けようではありませんか。

### あがとき



平和を望み、花を愛する多くの日本人は、

若し、アラブの油田地に馥郁と美しい花が咲いていたならば、或いは平和が保たれ昨今のような戦場にはならなかったのではと思っているに違いない。

また、近年地球上の各所に、台風、地震、津波等の発生が多くの人間を苦しめているが、

わが国でも降雪が多く、テレビにも雪の場面がよく出ているが、天候の件で新記録というのは人間のために余りよくないことが多いようです。

これらは天然現象だからやむを得ないことだが、このよくな時こそ世間では、前向きでしかも明るく楽しい話題を欲していることと思います。読者からの積極的なご投稿を期待しております。

(長谷川)